

Salesforce連携をスムーズに実現！ データ連携手法の選び方

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社



1.はじめに

2.Salesforceとのデータ連携の課題

3.Salesforceとのデータ連携手法について

4.データ連携ツールを利用したSalesforceとの連携

5.データ連携ツールの選定方法

1.はじめに



パナソニックグループのIT戦略を担う中核会社

パナソニックグループ全ての事業を動かす ITソリューションを企画・構築
グローバルな挑戦をITで支援しています

パナソニックグループ (7カンパニー / 38事業部)
の情報システム基盤の企画から運用まで

従業員数

 271,869 名

パナソニックグループ会社数

582 社
2019年4月1日現在

アプライアンス社

家電、美容、健康などのBtoC事業
業務用冷熱機器、デバイス、エネルギ-などのBtoB事業

オートモーティブ社

車載インフォテインメント、車載エレクトロニクス、自動車用ミラー、車載電池をはじめとする電動化システムなど

ライフソリューションズ社

電設資材や住設建材、建築事業

インダストリアルソリューションズ社

電子部品、FA・産業デバイス、電子材料、電池などBtoB事業

コネクティッドソリューションズ社

「流通」「物流」「エンターテインメント」
「パブリック」「アビオニクス」「製造」

US社

中国・北東アジア社

ユーザー起点で考え、ご提案できるSI企業

「自ら試し・選び・調達し・育てる」をポリシーに育んできたものを
ユーザーの目線で最適なモノをお客様にお届けします

▶ わたしたちの強み

① 約60年にわたる、大規模基幹システム構築ノウハウ

製造・流通業を中心に、設計～生産～物流～販売～管理の
全業務に密着したシステム構築のノウハウを保有



② 特定ベンダーに依存しない、マルチベンダー対応

パナソニックで培った目利き力を活かし、特定ベンダーに依存しない、
ユーザー様に最適な製品・技術をご提供

③ ワンストップでのソリューション提供

コンサルティングからシステム設計、開発、機器導入、運用まで
トータルにソリューションをご提供

▶ 様々な業種のお客様

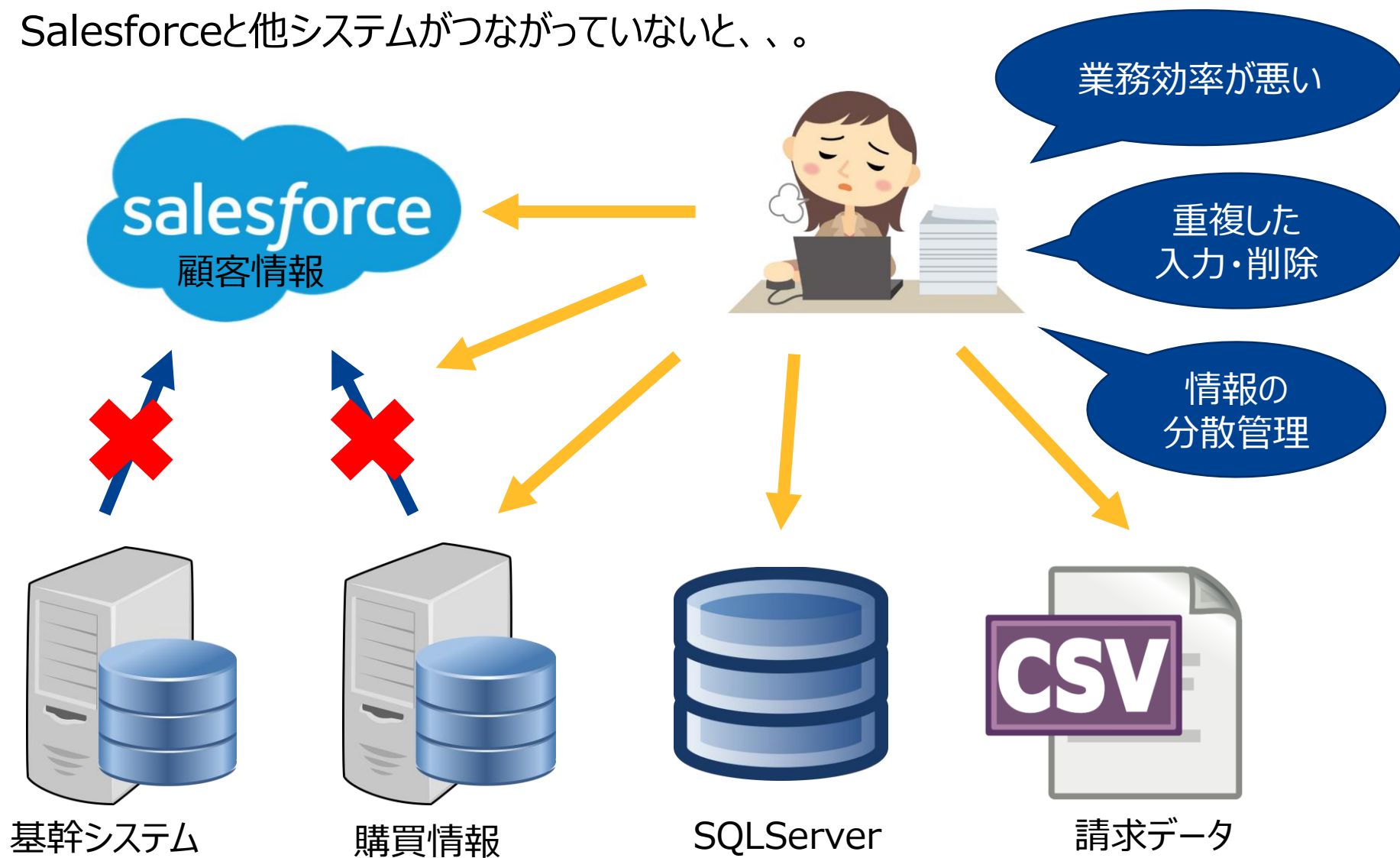
<p>● 製造</p> <p>    -All for dreams Solutioneering Together</p> <p>  </p>	<p>● 金融</p> <p> 大和総研 Daikin Institute of Research</p> <p> 株式会社 りそな銀行</p> <p> 近畿産業信用組合</p>
<p>● 流通</p> <p> </p> <p> </p>	<p>● サービス</p> <p> </p> <p> 阪神甲子園球場</p> <p> 富士急ハイランド</p>
<p>● 文教・自治体</p> <p> 国際基督教大学 INTERNATIONAL CHRISTIAN UNIVERSITY</p> <p> 湘南工科大学 SHONAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY</p> <p> 富士市 FUJII CITY OFFICIAL WEBSITE</p> <p> 富士見市 CITY OF FUJIMI</p> <p> 浦安市</p>	<p> NIFREL</p> <p> 利根ドーム RINKO DOME</p> <p> THE LANDMARK TOWER</p>

2.Salesforceとのデータ連携の課題

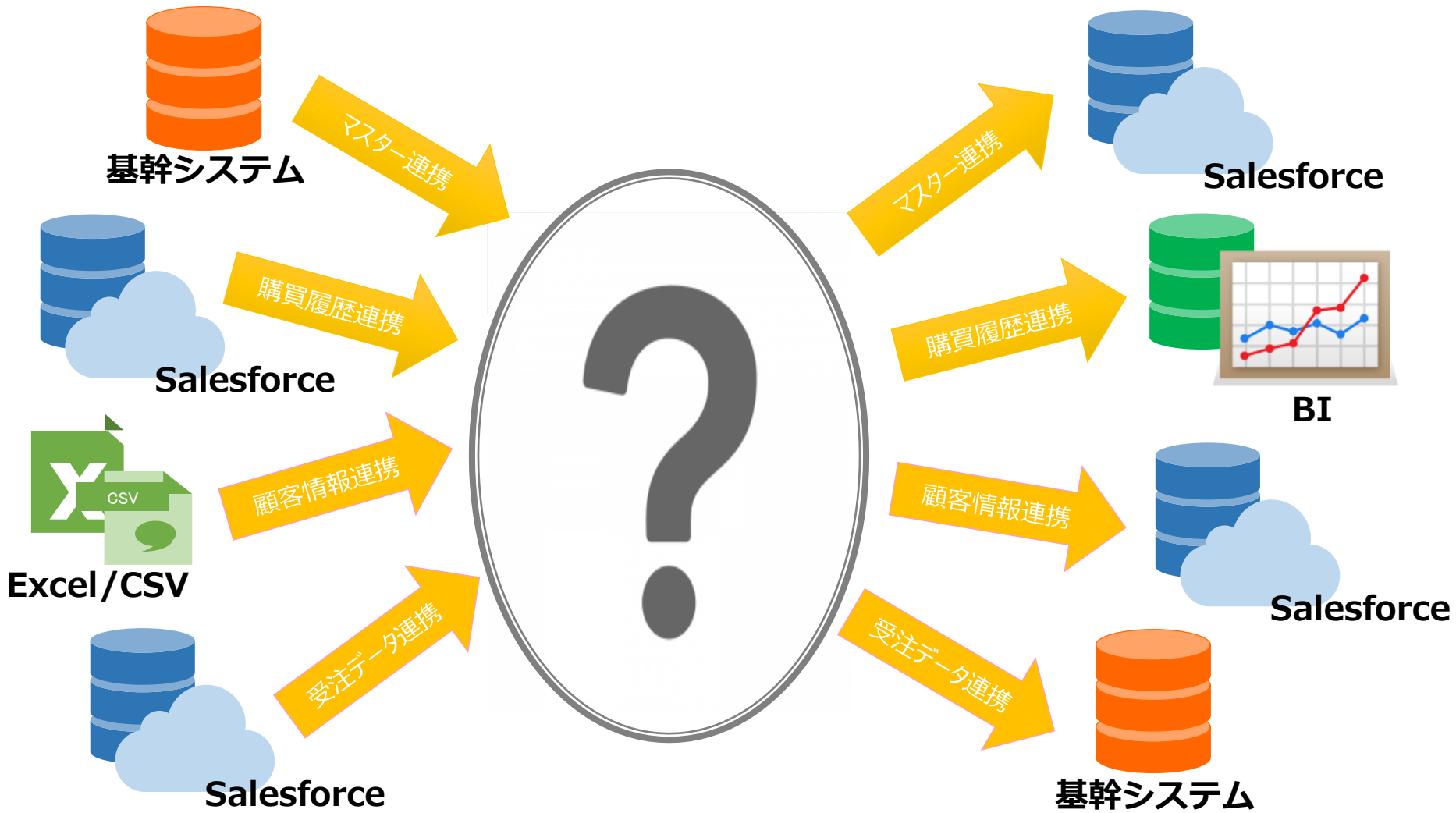
- ・企業と顧客をつなぐ**顧客管理**ソリューション。
マーケティング、営業、コマース、サービスなどすべての部署で、顧客情報を一元的に共有できる統合CRMプラットフォーム
- ・顧客管理 ・メール配信・キャンペーン管理
- ・SNS連携・顧客サポート機能 ・データ分析レポート
なども機能として提供されています。

Salesforceとのデータ連携の課題

Salesforceと他システムが繋がっていないと、。。



3.Salesforceとのデータ連携手段について



①Salesforce データローダ

データローダはSalesforceから無償提供されており、
単純なデータのインポート／エクスポート機能を提供します。

また、OSのタスクスケジューラーなどに登録することで自動実行も可能ですが、
データアップロード前にデータ加工処理が必要な場合や
複数のテーブル処理に対応する場合は、別途ツールやロジックを利用する必要があり
エラー発生時の検知方法がない為、運用の課題を対策検討することが必要となります。

②Web API個別開発

WebAPI個別開発はお客様の要望に柔軟に対応できますが、データフォーマット毎の対応が必要となり、追加・修正時に自社にてメンテナンスすることが困難な場合がございます。

ツール自体の費用は不要なため連携インターフェース（1～2程度）が少なく、かつ拡張／追加が無い連携開発時には有用な手段となります。

③データ連携ツール

データ連携ツールはライセンス費用及び保守費は発生しますが、多種多様なデータベースやデータ形式に対応しており、お客様で拡張／追加が予想される場合には、データ連携ツールのご利用が有用です。

また、Salesforce連携の実績も非常に多く、GUIベースでSalesforceとの連携開発が可能な点もデータ連携ツールの特徴です。

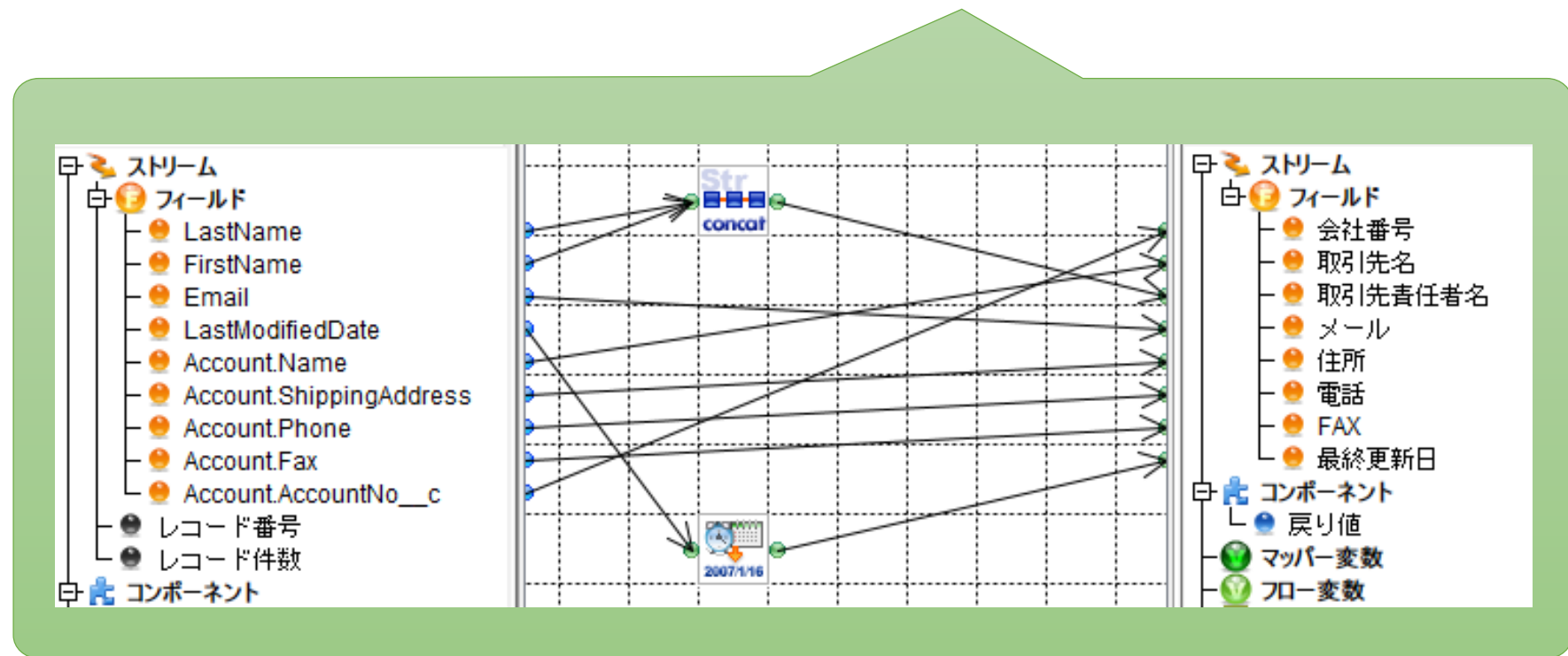
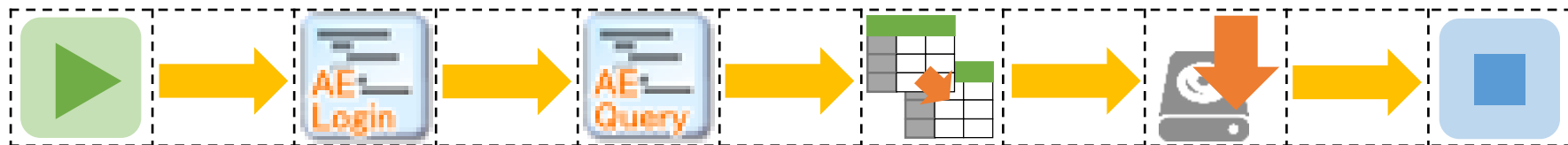
また、分かりやすいインターフェースに加えて開発に近い形の柔軟性もあります。エラー発生時の検知方法実装も容易で、運用の自動化も可能であり、複雑な処理においても高開発生産性を発揮することができます。

	データローダー	Web API開発	データ連携ツール
コスト	○	△	△
機能	×	○	○
難易度	○	×	○
保守性	△	△	○
開発生産性 (生産性)	○	×	○
拡張性	△	△	○



4.データ連携ツールを利用したSalesforceとの連携

Salesforceから取得した情報を加工し、
ファイル出力のマッピングを行います。



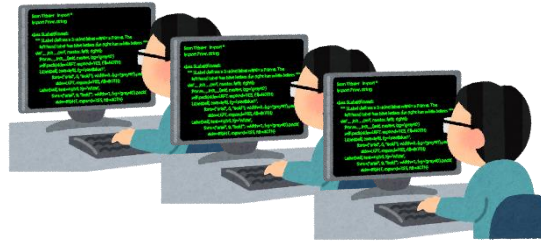
5.データ連携ツールの選定方法



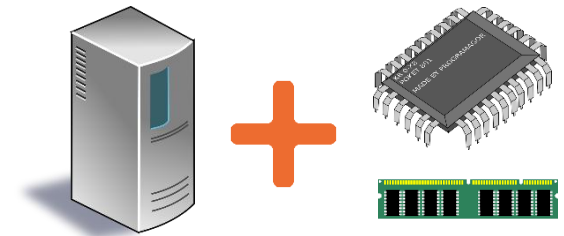
①Salesforceのサービスとつながること



②開発人数の制限がないこと



③CPU・メモリの上限がないこと



④テンプレートで簡単開発できること



⑤スモールスタートが可能な費用形態であること



⑥標準で様々な機能が利用できること



6.最後に



講演資料・詳細資料について

弊社よりご参加いただいた皆様にメールをお送りいたします。
そちらにダウンロードリンクを記載しておりますのでご確認の上、ダウンロード下さい。

詳しい説明について

連携手法についてお困りごとがある皆様からのお問い合わせをお待ちしております。
EAIでの連携開発・導入相談等がございましたらアンケートにご記入下さい。
また、Web訪問などにも対応しておりますのでお気軽にご相談ください。

メールでのお問合せ先

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
sales-pisc@ml.jp.panasonic.com



Panasonic